

北海道の脱炭素政策

北海道経済部

ゼロカーボン推進局ゼロカーボン産業課地域脱炭素係

R 6 . 8 . 1 9

A G E N D A

1. 北海道の目指す姿（ゼロカーボン北海道）
2. 市町村支援制度の枠組み
3. 北海道の役割と市町村への期待

01

北海道の目指す姿
(ゼロカーボン北海道)

2020年3月 ゼロカーボン北海道を宣言



ZERO CARBON
HOKKAIDO

■ 私たち北海道の目標

CO₂などの温室効果ガスの排出量を2013年度と比べ、

2030年度
までに

-48% (3,581万t-CO₂の削減!)

2050年
までに

実質ゼロ!

目標の実現のため、ライフスタイルやビジネススタイルの
脱炭素化への転換などを進めましょう!

1_2 北海道の取組のポイント

- 市町村の脱炭素化に向けた取組を進捗に応じて支援
- C O 2 排出量の見える化により、道民・事業者の脱炭素化の意識醸成や行動変容を促進
- 道自らが庁舎のZ E B化や次世代自動車導入を推進

7つの柱

地域の
脱炭素化支援

道民・事業者
への呼びかけ

農林水産業の
排出源・吸収源
対策

条例・計画の見直し

道有施設・設備の
脱炭素化

産学官による
研究開発

適応の取組

道民や事業者と
ゼロカーボンに向けた
認識共有・機運醸成・行動喚起

～2025年

ゼロカーボンに向けた道筋の構築

道全体
の目標

2013年度比
48%削減（※）

道庁実行目標

50%削減

～2030年

技術・取組などの加速による
ゼロカーボン北海道の実現

～2050年

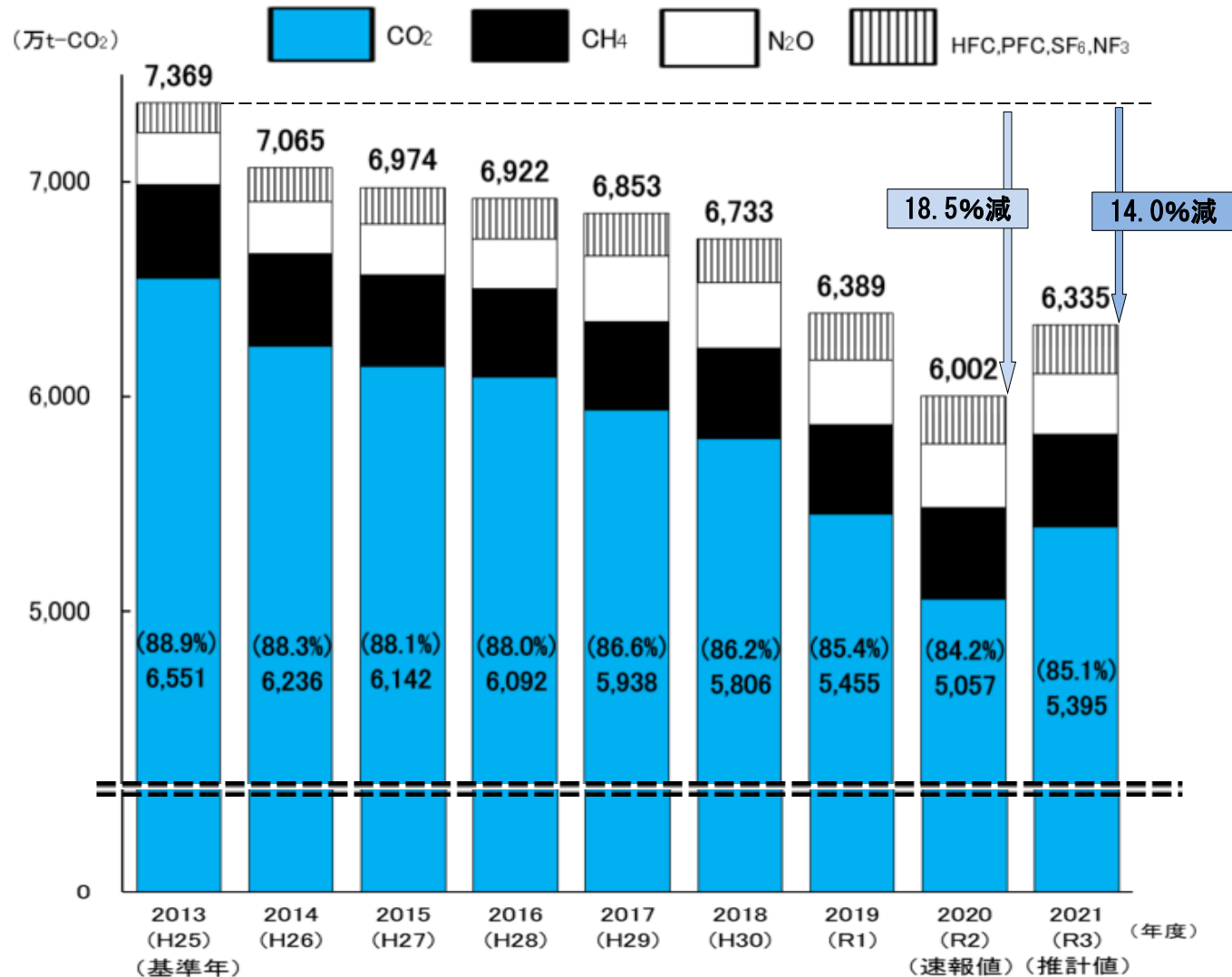
1_3 ゼロカーボン北海道のイメージ



イラスト：あいばゆう（第2回北のまんが大賞受賞者）

1_4 北海道の温室効果ガス排出量の特徴①

温室効果ガス排出量（2021年（推計値））



■道内の温室効果ガス排出量のピークは
2002(H14)年度の7,547万 t-CO₂

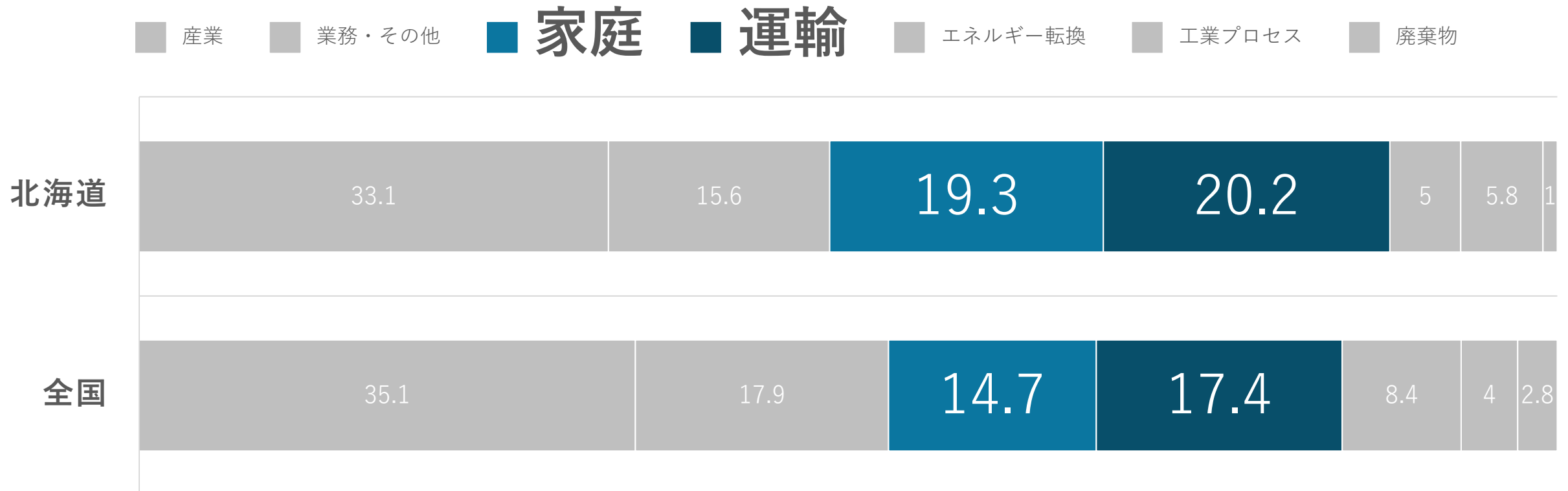
■2013年度以降は、**減少傾向**にあるが

■一人当たりの温室効果ガス排出量は
全国に比べ約 **1.3** 倍

区分	温室効果ガス 排出量	一人当たり
北海道	6,335万 t-CO ₂	12.2 t-CO ₂ /人
国	117,000万 t-CO ₂	9.3t-CO ₂ /人

部門別CO₂排出量の構成比（2021年（推計値））

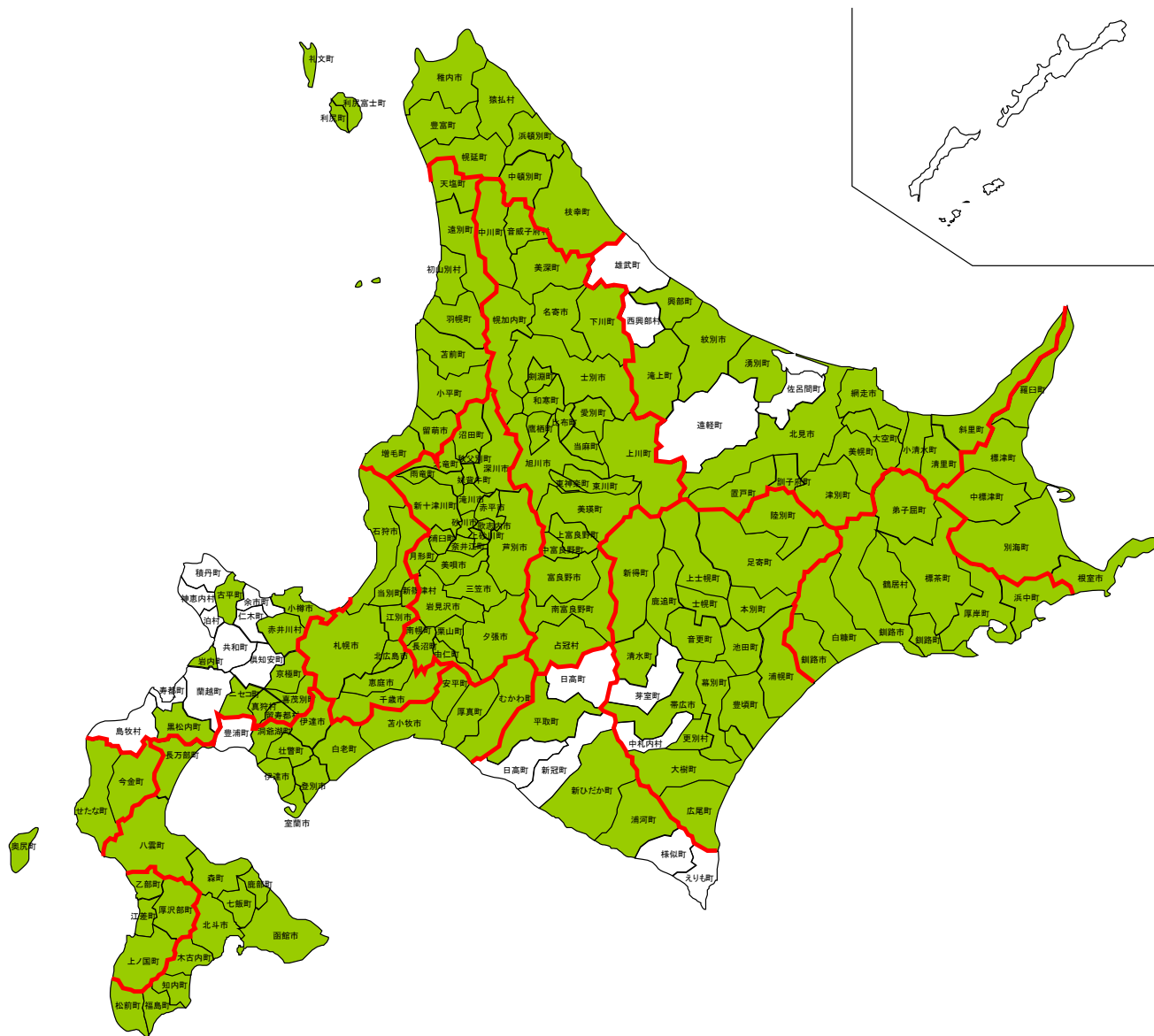
- 部門別の二酸化炭素排出量では、**全国と比べ、家庭部門及び運輸部門の割合が高い**
- 積雪寒冷により**冬季の灯油等の使用量が多い**ことや、広域分散型で**自動車への依存度が高い**



02

市町村支援制度の枠組み

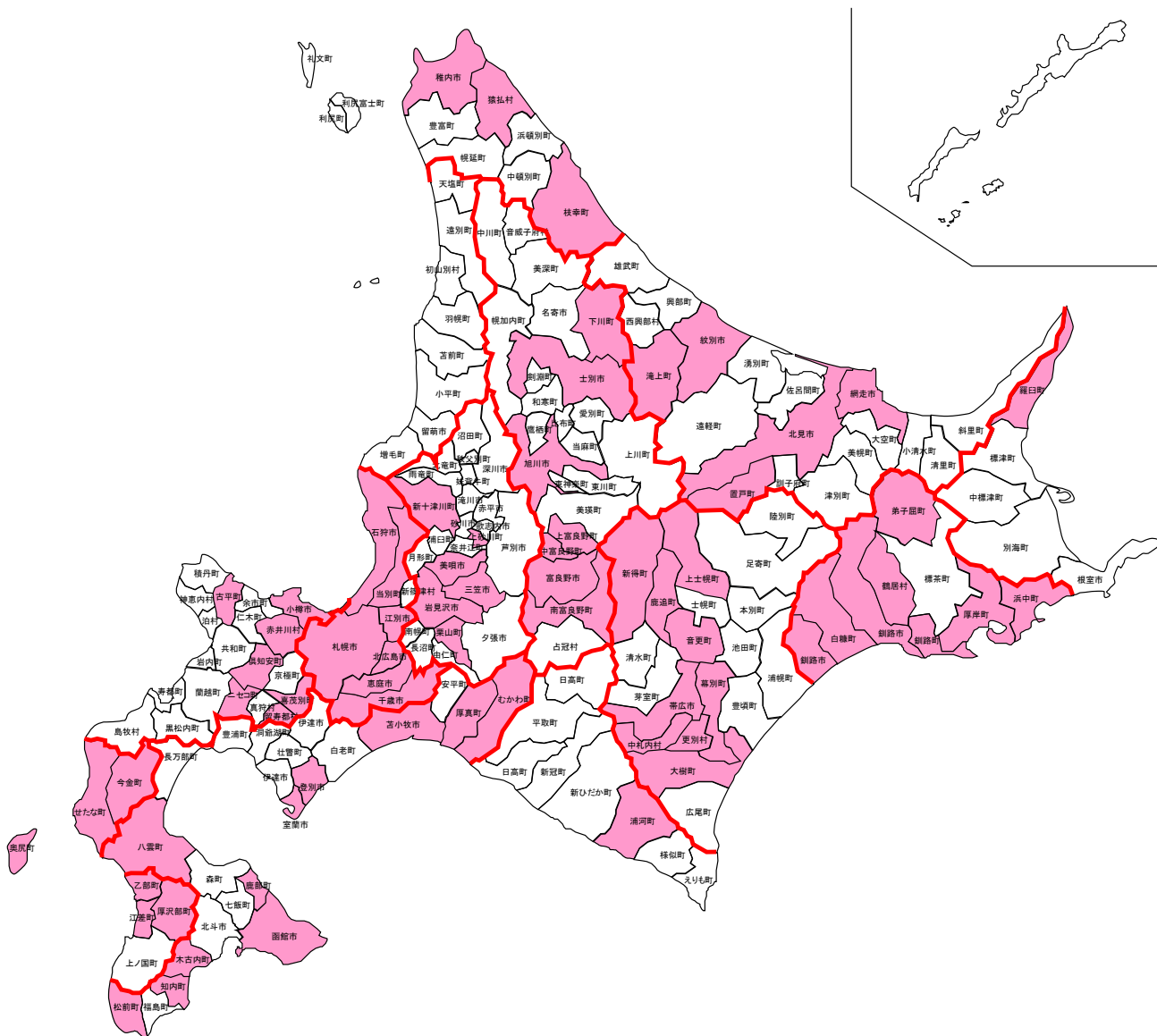
2_1 道内のゼロカーボンシティ宣言自治体



道内**158**自治体が宣言済

表明市町村人口は、
道内総人口の**97.4%**

【R6.6.28時点】



道内**68**自治体が作成済

道内市町村数の**37.9%**

【R6.3末時点】策定状況調査の結果による
※ゼロカーボン産業課地域脱炭素係実施

地域脱炭素事業をはじめたい
区域施策編をつくりたい



【はじめよう！地域再エネセミナー】

【時期】7/19～11/18（全8回）

【場所】オンライン

これから地域脱炭素を進めたいと考えている自治体職員を対象とした、再エネや省エネに関する基礎知識や事例を学べるオンラインセミナーです。

<詳細> <https://local-re-inzai.env.go.jp/>

【区域施策編勉強会】

【時期】8/19～20

【場所】札幌

まちづくりの手法としての地域脱炭素の取組意義を理解するとともに、区域施策編策定に向けた勉強会です。

脱炭素に取り組む方々と
繋がりたい



【脱炭素ネットワーキングフォーラム】

【時期】8/20

【場所】札幌

民間企業との出会いの場を提供し、市町村が地域脱炭素に取り組むために必要な官民共創のノウハウを共有する機会です。過去の官民共創事例（市町村×民間企業）紹介を通じて、脱炭素に取り組むイメージを持ち帰ってください。

【地方版ネットワーキングイベント】

【時期】10月～11月頃

【場所】釧路・根室／上川

上記イベントの地方版として、釧路・根室地域・上川地域で開催します。

脱炭素を理解する職員を
増やしたい



【人材育成支援事業 ゼロカーボン塾】

【時期】8月～2月まで

【場所】札幌、下記視察先

地域脱炭素に関する実践人材を育成することを目的とし、総論研修のほか視察研修による、実行性の高い研修会です。

視察研修では、同じテーマに取り組む塾生同士の横の繋がりも強くなり、研修後もお互いに情報共有が図られる関係づくりを支援します。

<視察研修テーマ>

- ・太陽光（鹿追町：9/26-27）
- ・ZEB・ZEH（美幌町：10/2-3）
- ・J-クレジット（津別町：10/3-4）

具体的な技術をもつ事業者と
議論したい



【ソリューションマッチング会】

【時期】検討中（11月～12月又は2月頃）

【場所】札幌市

地域脱炭素の実践段階において、官民共創の具体的なパートナーを見つけるための場を提供します。

テーマの候補は、市町村の関心が高い「PPA太陽光」「ZEB・ZEH」「J-クレジット」を検討しています。

具体的なソリューションを持つ事業者とのマッチングが地域脱炭素を更に加速させます。

<参考>

R5実績 計3回開催 総勢455名参加

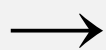
03

北海道の役割と 市町村への期待

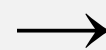
■北海道の役割

- 1 広域行政として179市町村へのフォロー
- 2 振興局をhubとした、きめ細かな支援及び相談体制の構築

国



北海道(振興局)



市町村

中央政府
法律

広域行政機能
調整機関

地方自治の
執行

■市町村へ期待すること

1 地域脱炭素を **“まちづくりの手段”** として捉えること
～ 脱炭素 × ○○○ = 地域課題への対処 ～

2 地域内に **“脱炭素キーパーソン”** を見つけること
～ まちづくり（地方創生）の観点から、地域の協力者を ～

北海道（振興局）へ気兼ねなくご相談ください

(参考) 市町村の地域脱炭素化に向けた施策パッケージ

